

山岳ぐんま



一般社団法人 群馬県山岳・スポーツライミング連盟

発行人：吉田直人 / 編集人：根井康雄

〒371-0031 前橋市下小出町2-46-1 (小池寛喜方) tel 027-235-9247 E-mail : info@gunmaken-sangakurenmei.net



天神峠から望む谷川岳 (撮影 2022年8月)

top News 谷川岳山開き 7月2日



山開きの始まりを告げる三国太鼓



暗いうちから大勢の人で賑わう会場前

記憶では「谷川岳山開き」の日に雨に降られたことがない。7月第1日曜日という梅雨の真っ盛りなので小雨程度には降られたこともあるかと思うが、雨にたたられたという記憶がないのは、やはりこれも一つの「特異日」なのだろうか。

今年は7月2日が第1日曜日となり、この日の早朝、谷川岳インフォメーションセンター前で山開きが行われた。今年も前日までの雨天が一転して、夏山開幕を思わせる山開き日和となった。豚汁のサービスなどのテン

トが並び、人手の多さを感じる今年の山開きだった。

山開きの神事に先立ち、群馬県山岳団体連絡協議会の岳連、労山、日本山岳会の3団体は夜行臨時列車の到着に合わせ、深夜から準備を始め、土合駅から会場までの道にかがり火を灯し、訪れる登山者やハイカー、観光客を迎えた。

山開きは午前4時、恒例の三国太鼓の演奏で開始。地元各界の代表者や警察・消防関係者、そして山岳関係者らが玉ぐしをささげ、安全登山を祈った。

八木原罔明顧問が旭日小綬章を受章



発起人代表あいさつをする外山京太郎川場村長

花束は支えてくれた奥様へ

和気あいあいとした会場

群馬県山岳連盟と日本山岳・スポーツクライミング協会で長期にわたり会長をはじめ重要な役職を務めた八木原罔明顧問が今年春の叙勲で旭日小綬章を受章し、6月23日、前橋市日吉町の前橋商工会議所会館で叙勲祝賀会が盛大に開かれた。

祝賀会は吉田直人岳連会長、外山京太郎川場村長、そして友人代表の永田智彦氏が発起人となり、山岳関係者だけでなく、スポーツ界、政財界ほか、八木原顧問の人脈の広さを示すかのように幅広い層から100人近い参列者が祝福に訪れた。

会は日本山岳会の田中規王会員が司会を務め、川場村長の外山京太郎氏の発起人代表挨拶に始まり、群馬県副知事の津久井治男氏、前橋商工会議所名誉会頭で日本山岳会員の曾我孝之氏、元群馬県議会議長の中沢丈一氏、そして恩師の鶴田智之氏が祝辞を述べた。

群馬県勤労者山岳連盟会長の清水隆次氏による記念品贈呈、日本山岳会群馬支部顧問の平野紀子氏の花束贈呈の後、八木原罔明氏から心温まる謝辞が述べられた。

群馬県山岳・スポーツクライミング連盟の吉田直人会

長による乾杯が終わると、和やかな雰囲気の中、八木原氏を囲み、また各テーブルで歓談の輪が広がった。

八木原罔明氏は昭和21年11月27日、前橋市下細井町に生まれ、中学校時代から登山に親しみ、昭和44年の初の海外登山となる台湾玉山にはじまり、昭和47年、50年（登頂）のヒマラヤダウラギリ4峰、昭和53年にはダウラギリ1峰南東稜（8167m）の世界初登攀に成功。さらに隊長としてアンナプルナ南壁の冬季世界初登攀、エベレスト南西壁の冬季世界初登攀など数々の輝かしい実績を残している。

また、平成24年5月から（令和2年5月まで）群馬県山岳連盟会長、27年5月から（令和3年5月まで）公益社団法人日本山岳協会会長を務めた。そのほか、国際山岳連盟（UIAA）理事（令和元年11月まで）、公益財団法人日本オリンピック委員会評議員（令和3年6月まで）、公益財団法人尾瀬保護財団評議員（令和2年6月まで）、日本山岳文化学会理事（現職）、群馬県山岳団体連絡協議会会長（現顧問）など数多くの要職に就かれてきた。

弱電工事承ります。

電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN及びWi-Fi環境)、

TVアンテナ及びケーブル工事

パソコンで悩んでいませんか？

ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。

(難しい故障の場合は外注となります。)

ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由

群馬県前橋市高花台1-6-5

電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158

御巢鷹の尾根と県境の山 ～慰霊とシャクナゲの道～

自然保護委員会副委員長 細野義法

令和5年5月28日（日）、参加者26名、自然保護委員会9名（総勢35名）で実施しました。

旧登山口のトイレのある駐車場で8時30分から受付です。携帯電話の電波が届かないからなのか、気合の表れか、その時間には参加者は全員集まり受付も終わっていました。

集合場所で委員長の挨拶、準備体操、行動予定や注意点を伝えた後、車で登山口近くの駐車場へ移動し9時から歩き出すことができました。大雨の被害を受けた場所もしっかりと修復され歩きやすい道になっているのは、地元の方により日々手入れが行われているおかげです。

昭和60年8月12日に日本航空123便は墜落し524名の乗客、乗員の内520名の方が亡くなりました。参加者それぞれが当時の記憶を思い出し「自宅から赤いのが見えた」「救助隊はなぜ現場に早く行かないんだろう」など大惨事の事を口に出しながら墓標の間を歩いて行きます。私事で

すが、就職して初めての研修中で要請があれば現場に出動することが伝えられていたのを思い出します。

行動は班ごとで行い、各班にチーフリーダー、サブリーダーを配置しました。リーダー間で無線交信したり、目視で参加者の様子を確認しながら私は先頭でペースを刻みました。

昇魂之碑のある広場で献花と黙とうをしました。その後、委員から日航機が県境の尾根に接触してこの地に墜落した時の様子を聞いたり、亡くなった方の写真や遺品、碑などをみて当時のことを思い出していました。

しばらく進むと本格的な登山道となり、県境まではかなりの急斜面もあります。登行中、下山時に危険と思われる2か所に40mと30mのフィックスロープを設置して行きました。

標高が上がると、途中では咲き終わっていたアズマシャクナゲも今が盛りと言っているようでした。副題にした「シャクナゲの道」の顔が立ちました。

少し遅れ気味の方も居ましたが、参加者同士の助け合いもなく、脱落者を出さずことなく順調に進むこと

ができました。

県境に到着すると、長野県側の新緑のカラマツ樹林帯からのさわやかな風が吹いていて、急な登りで汗ばみ火照った体も一気に冷ましていきます。ここからは、気持ちのいい風を受けつつ多少のアップダウンをしながら大蛇倉山までの歩きです。予定より少し早く大蛇倉山に到着しました。



アズマシャクナゲ

北側は木が茂り景色はありませんが、少し降りたところに突き出た大きな岩があり展望台となっています。

上野ダム、南相木ダム、県境稜線、遠くに目をやると浅間山、八ヶ岳、アルプスなども見えています。委員が持参した大正時代の地図を見たり、歴史の話を聞きながらの楽しいお昼休憩です。

下山は、来た道に戻ります。有事の際のためにAEDも持参しましたが、使用を懸念する場面もありませんでした。時々、滑って転倒する方も居ましたが、木をつかんだりフィックスロープを利用して大きなケガも無く下山することができました。

これからも岳人ならではの魅力ある企画を自然保護委員会でしていければと考えています。そして、群馬県山岳・スポーツクライミング連盟の発展のために努力していきたいと思えます。



参加者で記念写真



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

群馬岳連激闘アンナプルナ I 峰の BC を訪ねて 3-1

高橋守男 (沼田山岳会・高体連OB会会員)

群馬岳連の海外遠征の歴史は長い。たぎる情熱とエネルギーで挑戦していた頃のヒマラヤの巨峰のひとつにアンナプルナ I 峰があった。人類により初めて登られた 8000m であり、群馬岳連はそのバリエーションルート南壁からの冬期世界初登攀をねらっていた。2度にもわたる挑戦で、1987 年 12 月に 4 人が見事登頂。しかし直後、頂上直下で 2 人が転落し、辛い結末となってしまった。その二人、小林俊之さん (22 歳) と斉藤安平さん (34 歳) の慰霊碑を訪ね、群馬岳人の活躍に思いを馳せる旅が計

画された。

当時のアンナプルナ登山隊員佐藤光由副会長とエベレスト南西壁冬期初登攀の後藤文明さんのほか、趣旨に賛同する 7 人 (森田春樹、高橋守男、対比地昇、瀬沼聡、佐藤緑、中島あづさ、片野直子・・敬称略、年齢順) で 4 月 12 日に成田を発った。

出発を控えて、遠征報告書から当時の登山活動を振り返ると、厳しく困難な登攀が伝わってきた。全体の行動記録と遠征を終えた登山隊メンバーの文章は、隊員の熱い思いと苦闘を物語っていた。亡くなった 2 人の文章がないのは何とも辛い。次に目を通したエルゾグ著「処女峰アンナプルナ」では、フランス隊の死闘が隊員の交わす会話の中



レストランでの夕食

で生き活きと語られていた。

アンナプルナへの思いを胸に、カトマンズに到着する。日本語の出来るガイドの案内で繁華街に建つホテルに向かうと、予想通りのカルチャーショックが始まる。交通事情がすごい。信号はほとんどなく、巧みな運転で走る車とそれを縫うように走るオートバイ (1~3 人乗り) が曲芸のようである。ここネパールで運転できる日本人は少なからう。ホテル到着後、近くのレストランに出かけ初日を終えた。



カトマンズ市街

アルファ化米
乾燥米飯

キャンプ 野営に飯を

nozomi foods Co., Ltd.
あなたの安心を支える Wel-heart
<https://www.nozomi-f.jp>

QRコードとWEBリンク

参加者募集

2023年度

群馬県山岳・スポーツライミング連盟

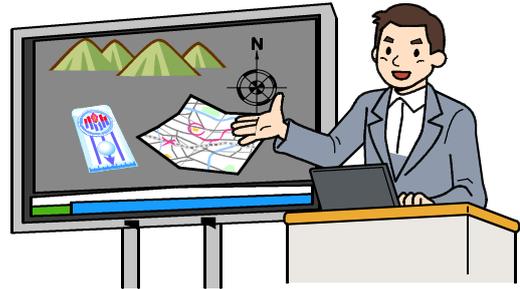
登山教室

これから登山を
始めたい人

登山の基本を
学びたい人

登山を安全に楽
しみたい人

単独登山で心
配だという人



- 1 目的・対象 安全で楽しい登山のための基本的な知識と技術を習得
中学生以上の人で原則として全日程参加できる人（募集人数 先着 30 名）
- 2 主催・指導者 群馬県山岳・スポーツライミング連盟・日本スポーツ協会公認山岳指導者（コーチ 1,2）
- 3 日程・内容

第1回	2023年8月30日(水) 19:00～21:00	会場：前橋市総合福祉会館 社会適応訓練室
開講式、はじめに「登山の魅力と安全登山」 座学①「ナビゲーション技術1（地形図の基礎とその利用）」		
第2回	2023年9月6日(水) 19:00～21:00	会場：前橋市総合福祉会館 社会適応訓練室
座学②「ナビゲーション技術2（地図とコンパスの利用、GPS・スマホの利用）」		
第3回	2023年9月16日(土) 8:00～15:30	登山実技 赤城山
講習内容：座学①②の確認、歩行技術、休憩・行動食のとり方、装備・パッキング等		
第4回	2023年9月23日(土) 8:00～15:30	登山実技 赤城山
講習内容：第3回と同じ		
第5回	2023年9月27日(水) 19:00～21:00	会場：前橋市総合福祉会館 社会適応訓練室
座学③「山の天気・気象」、閉講式		
特別講習	2024年2月24日(土) 8:00～15:30	玉原湿原周辺
登山実技「スノーシュー講習」 希望者が少ない時は中止		

- 4 参加費：5,000円(秋5回分、資料代・保険料等) 第1回の受付にて徴収(納入後の返金不可)
- 5 申し込み方法 A、Bどちらかの方法で申し込む

A	郵送(封筒)での申し込み 申込用紙のすべての事項を記入し、下記住所宛に郵送
B	Eメール(携帯キャリアメールは不可)での申し込み 申込用紙のすべての事項を入力し、下記アドレス宛に送信

※申し込み受付期間 2023年7月1日(土)～8月15日(火)

※募集人数 先着30名

※申込み・問合せ先

〒373-0802 群馬県太田市矢場新町138-11 登山教室事務局 対比地 昇 宛E
メール：tsuicck@gmail.com 携帯：080-3595-9245

- 6 その他
 - ①講習についての詳細は、8月下旬に郵送またはEメールにて連絡します
 - ②全5回すべての講習を受講された方には修了証を授与します
 - ③群馬県山岳・スポーツライミング連盟のホームページ (<https://www.gunmaken-sangakurenmei.net>) に要項、連絡事項などを掲載しますので、ご覧いただける方は確認してください。
 - ④この講習会で撮影した写真やビデオをホームページや他の行事で使用することがあります。

2023年度 群馬県山岳・スポーツライミング連盟 登山教室 参加申込書

氏名(フリガナ)		性別		年齢	
住所 (〒)		電話	自宅		
			携帯		
この登山教室のこれまでの参加経験	なし、あり(回)		登山歴	なし、あり(年)	

この個人情報はこの登山教室のため以外には使用いたしません

群馬の山 10

赤城・黒檜山 駒ヶ岳周回コース

難易度 B / 体力度 2

北登山口 → 〈1:40〉 黒檜山 → 〈1:00〉 駒ヶ岳
→ 〈0:50〉 大洞 (あかぎ広場前)

大きく裾野を広げ、群馬を代表する山として、古くから歌に詠まれ、文人墨客にも愛されてきた赤城山、今は日本百名山のひとつとしても人気が高い。特に最高峰の黒檜山は貫禄ある山容と駒ヶ岳への



地蔵岳から望む黒檜山 (手前は大沼)

ミニ縦走が楽しめるとあって、初夏のツツジの頃から紅葉期まで登山者が絶えない。近年では冬山登山の対象としても注目されている。登山道は一部の区間が関東ふれあいの道にも指定され、整備されている。子ども連れや軽装のハイカーも登っているが、岩混じりの急斜面や鉄階段の通過などには注意したい。

「群馬の山歩きベストガイド

安心して歩ける 126 コース」

群馬の山歩き
ベストガイド



定価 1400 円 + 税
ISBN978-4-86352-249-7

群馬県山岳連盟と日本山岳会群馬支部、群馬県勤労者山岳連盟による群馬県山岳団体連絡協議会の編集で、上毛新聞社から発売中。お求めは岳連総務委員会へ。県内外の書店でも好評販売中。

後編
記集

全国に散らばっている山岳会の有志 20 人ほどで探勝会と称して各地を旅している。今回は 2 泊 3 日で青森は下北半島へ。登山もしたが、自分はほとんど観光組。寒立馬で知られる尻屋崎、会津藩の悲劇を語り継ぐ斗南藩、そして恐山など、本州最果ての半島を旅し、新鮮な体験を得た。そしてなによりも海なし県の狭い群馬を再認識できた。井の中の蛙にならないよう、普段はあまり行かないようなマイナーな場所に行くことにも大きな意味がありそうだ。もっとも大間のマグロはメジャーなブランド。舌鼓を打ったことは言うまでもない。



(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026